

1 PLAN(目的・概要)

その他経常業

政策名	交流・環境		責任者	企画調整室 環境担当課長
施策名	良好な港湾環境の形成		連絡先	052-654-7819
事務事業名	環境マネジメントシステム(EMS)の運用		連携課	
目的	対象(誰・何を)	本組合における環境負荷	事業期間	平成15年度～令和 元年度6月30日まで
	意図(どうい う状態にしたいか)	継続的に低減し、環境目標を達成します。		
概要	第4次名古屋港管理組合地球温暖化対策実行計画に掲げた取組を適切かつ効果的に運用することを目的とします。		根拠 法令等	
活動内容	名管独自のEMS「名管EMS」で運用を行います。 監視・測定として四半期ごとに各推進員から記録書の報告を受け、職員相互による環境 監査を実施します。 取組結果については本組合ホームページにて公表します。		実施義務	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
			関連 シート	

2 DO(実施)

コスト	単位	28年度	29年度	30年度	平均	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	0	226	0	75	29年度は、2年毎に実施している環境監査員養成研修に係る委託料を計上したため、事業費が増加しました。
人件費	千円	3,584	4,595	4,610	4,263	
合計	千円	3,584	4,821	4,610	4,338	

3 CHECK(検証)

指標名		28年度	29年度	30年度	中間目標 30	指標の説明・目標値の考え方	外部要因	
各種研修の対象職員受講率(%) (単年度管理型)	目標	100	100	100	100	EMSマニュアルで定めている各種研修の対象職員の受講率を算出します。		
	実績	98	66	100				
	事業進捗状況(30年度)		目標値を上回る 目標値をやや下回る		目標値どおり 目標値を下回る			
指摘事項件数(件) (単年度管理型)	目標	0	0	0	0	環境監査において、指摘事項を受けないよう、EMSの適切な運用を目指します。		
	実績	0	0	0				
	事業進捗状況(30年度)		目標値を上回る 目標値をやや下回る		目標値どおり 目標値を下回る			
目標の達成度に対する評価 (外部要因等を踏まえた)	平成30年度は、全員出席となり目標を達成しました。							
必要性・有効性・効率性の検証	評価	評価に関する説明						
必要性	本組合が関与し、どうしてもやらなければならない事業か?	○	温室効果ガス削減のための地球温暖化対策実行計画を推進するためには必要な事業です。					
	事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっているか?	○						
有効性	事務事業は、施策達成に貢献するか?	○	各種研修を実施し、職員のエコ行動(省エネ・節約)は、使用量等実績からみても定着してきているといえます。したがって、事務事業は施策達成に貢献しており、また期待どおりの成果が得られています。					
	期待どおりの成果が得られているか?	○						
効率性	最小のコストとなっているか?	○	本組合独自のシステムを導入したことにより、効果的に運用しています。					

4 ACTION(取組)

課題	令和元年度以降の取組
職員のエコ行動は定着しているが、温室効果ガスの更なる削減のためには、取組の軸足を新たな施策の検討・実施に移していく必要があります。	温室効果ガスの更なる削減に向けて、新たな施策検討・実施に重点をおいた運用方法に切り替えます。